

ダイワ・エマージング高金利債券ファンド (毎月分配型)

<4780>

追加型投信／海外／債券
日経新聞掲載名：エマ高金利債

第149期	2020年8月17日決算	第152期	2020年11月16日決算
第150期	2020年9月15日決算	第153期	2020年12月15日決算
第151期	2020年10月15日決算	第154期	2021年1月15日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、エマージング諸国の現地通貨建債券に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第154期末	基準価額	3,511円
	純資産総額	1,534百万円
第149期～第154期	騰落率	1.0%
	分配金合計	60円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇TKU0478020210115◇

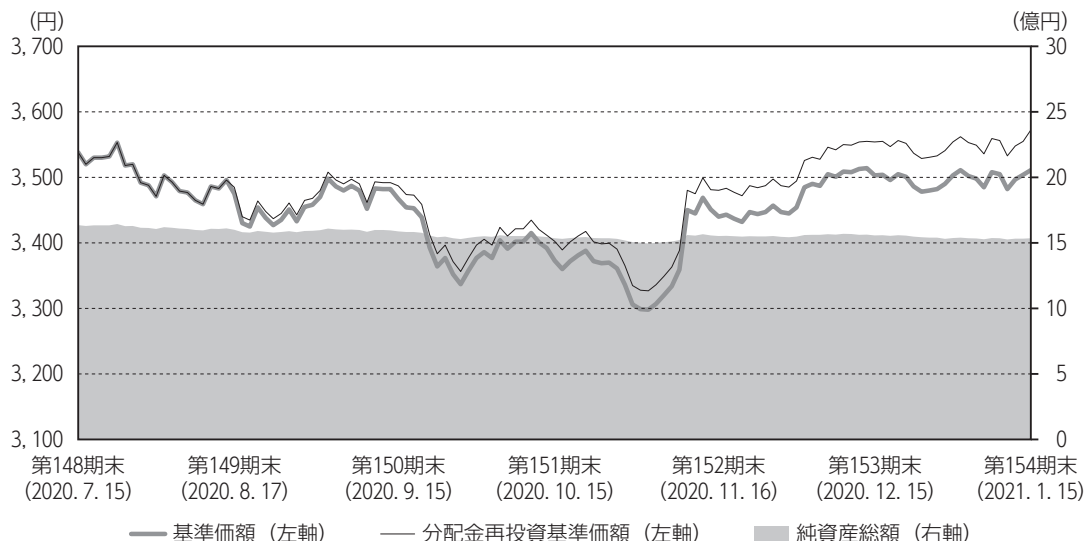
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

第149期首：3,538円

第154期末：3,511円（既払分配金60円）

騰落率：1.0%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

主として「ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド」の受益証券を通じて、新興国通貨建ての債券に投資した結果、投資している債券の値下がりや投資対象通貨が対円でおおむね下落（円高）したことがマイナス要因となりましたが、債券の利息収入は基準価額のプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1万口当りの費用の明細

項 目	第149期～第154期 (2020. 7. 16～2021. 1. 15)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	26円	0.741%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は3,449円です。
（投 信 会 社）	(11)	(0.332)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(13)	(0.387)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.021)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	2	0.063	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(2)	(0.056)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	28	0.803	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

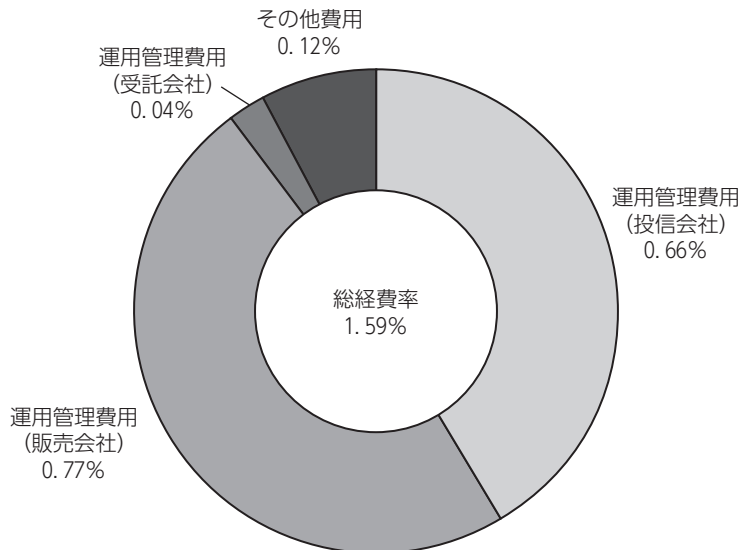
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.59%です。

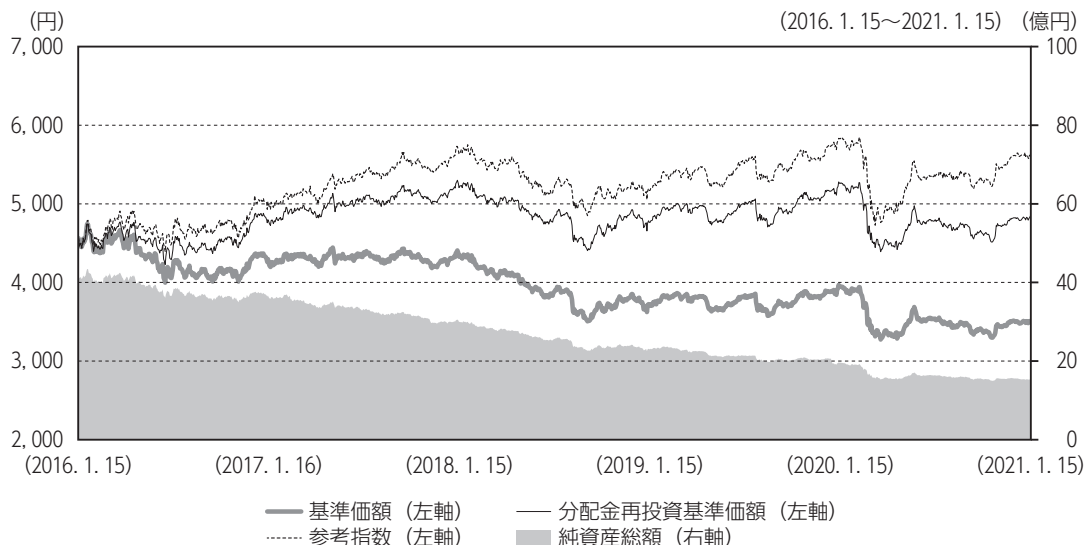


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2016年1月15日の基準価額をもとに指数化したものです。

*参考指数は J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) です。

	2016年1月15日 期初	2017年1月16日 決算日	2018年1月15日 決算日	2019年1月15日 決算日	2020年1月15日 決算日	2021年1月15日 決算日
基準価額 (円)	4,563	4,238	4,323	3,705	3,946	3,511
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	510	310	255	120	120
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	4.6	9.6	△8.5	9.9	△7.9
J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) 騰落率 (%)	—	9.2	13.7	△8.2	12.1	△3.6
純資産総額 (百万円)	4,188	3,617	2,985	2,301	1,957	1,534

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注3) J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) は、J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに大和アセットマネジメントが円換算したものです。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

投資環境について

（2020.7.16～2021.1.15）

新興国債券市況

新興国債券市場は、個別国要因などにより、国によってまちまちな展開となりました。

・欧州・中東・アフリカ地域

トルコでは、インフレ率が市場予想よりも上振れたことやギリシャとの軍事衝突懸念が高まったことなどから、金利は上昇しました。ロシアでは、利下げ期待が後退したことなどを背景に、金利は上昇しました。ポーランドでは、ドイツなど欧州圏の金利低下に連れて金利は低下しました。

・アジア地域

インドネシアでは、中央銀行による利下げなどを背景に、金利は低下しました。インドでは、市場で利下げが予想されていましたが予想外に据え置きとなったことなどから、金利は上昇しました。フィリピンでは、市場の予想とは異なり、中央銀行によって利下げが実施されたことなどを背景に、金利は低下しました。

・中南米地域

ブラジルでは、新型コロナウイルスの感染拡大などを背景に、金利は上昇しました。メキシコでは、米国大統領選挙でバイデン氏が勝利したことでトランプ大統領によるメキシコへの強硬路線からの転換が期待され、金利は低下しました。コロンビアでは、中央銀行による利下げが実施されたことなどを背景に、金利は低下しました。

為替相場

新興国為替市場は、新型コロナウイルスの感染拡大などから、市場のリスク回避姿勢が強まり、多くの新興国通貨が対円で下落しました。

・欧州・中東・アフリカ地域

トルコ・リラは、トルコとギリシャとの軍事衝突懸念の高まりや外貨準備高減少への懸念などから、対円で下落しました。ロシア・ルーブルは、新型コロナウイルスの感染拡大などから市場のリスク回避姿勢が強まり、対円で下落しました。ポーランド・ズロチは、欧州復興基金の成立がポーランドへ大きな恩恵を与えると期待されたことなどを背景に、対円で上昇しました。

・アジア地域

インドネシア・ルピアやインド・ルピー、フィリピン・ペソは、新型コロナウイルスの感染拡大などから、市場のリスク回避姿勢が強まり、対円で下落しました。

・中南米地域

ブラジル・レアルは、市場のリスク回避姿勢の強まりを受けて対円で下落しました。メキシコ・ペソは、利下げ観測の抑制が通貨の上昇材料となり、対円で上昇しました。コロンビア・ペソは、原油価格の持ち直しが好感されて対円で上昇しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

■ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

金利リスクを表す修正デュレーションは1（年）程度～3（年）程度でコントロールします。

ポートフォリオについて

(2020.7.16～2021.1.15)

■当ファンド

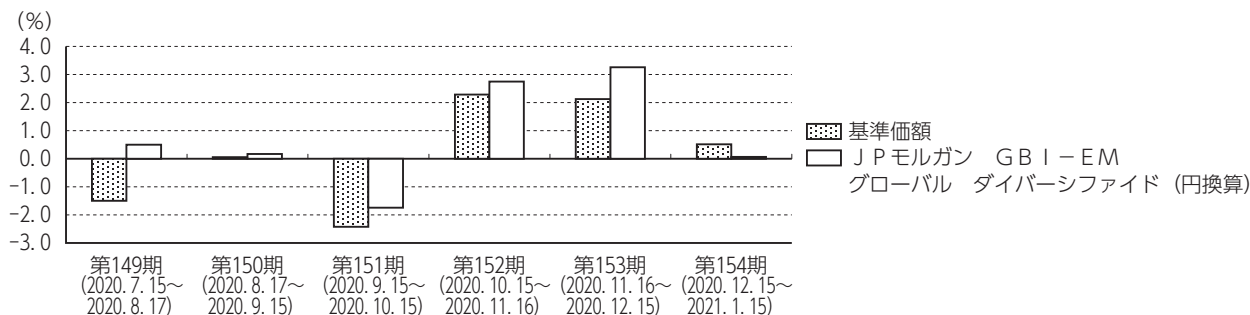
当作成期を通じて「ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

■ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド

- ・通貨配分に関しては、基本的な商品性格に基づき、各地域均等、各地域内の投資通貨においても均等となることをめざしました。
- ・欧州・中東・アフリカ地域においては、トルコ・リラ、ロシア・ルーブル、ポーランド・ズロチ、アジア地域ではインドネシア・ルピア、インド・ルピー、フィリピン・ペソ、中南米地域ではブラジル・レアル、コロンビア・ペソ、メキシコ・ペソへ投資しました。
- ・債券ポートフォリオの金利リスクについては、修正デュレーションで1（年）程度～3（年）程度でコントロールしました。また、組入債券の種別構成については、現地通貨建国債と国際機関債からなるポートフォリオ構成としました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	第149期	第150期	第151期	第152期	第153期	第154期
	2020年7月16日 ～2020年8月17日	2020年8月18日 ～2020年9月15日	2020年9月16日 ～2020年10月15日	2020年10月16日 ～2020年11月16日	2020年11月17日 ～2020年12月15日	2020年12月16日 ～2021年1月15日
当期分配金(税込み) (円)	10	10	10	10	10	10
対基準価額比率 (%)	0.29	0.29	0.30	0.29	0.28	0.28
当期の収益 (円)	10	10	10	10	10	10
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	206	211	214	223	229	234

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第149期	第150期	第151期	第152期	第153期	第154期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 16.52円	✓ 15.01円	✓ 13.70円	✓ 18.31円	✓ 16.71円	✓ 14.58円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	39.92	40.09	40.24	40.42	40.82	40.99
(d) 分配準備積立金	159.55	165.91	170.79	174.33	182.25	188.81
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	216.00	221.03	224.74	233.06	239.80	244.39
(f) 分配金	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	206.00	211.03	214.74	223.06	229.80	234.39

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、「ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド」の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

■ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

金利リスクを表す修正デュレーションは1（年）程度～3（年）程度でコントロールします。

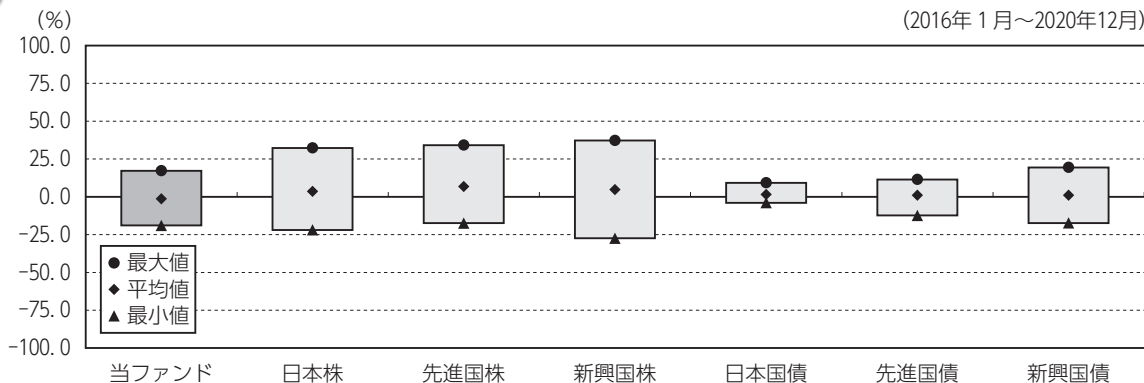


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンドの受益証券
	ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド	海外の債券
マザーファンドの運用方法	<p>①主として、エマージング諸国の現地通貨建債券に分散投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。</p> <p>②投資にあたっては、以下の点に留意しながら運用を行なうことを基本とします。</p> <p>イ. J Pモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケットツ ブロードの構成国を参考に投資対象通貨を選定します。</p> <p>ロ. 通貨の地域配分にあたっては、欧州・中東・アフリカ地域、アジア地域、中南米地域の3地域へ均等とすることをめざします。</p> <p>ハ. 各地域ごとに3通貨を選定して均等に配分することをめざします。通貨の選定にあたっては、各国の金利水準、経済ファンダメンタルズ、流動性等から判断し、年2回以上見直しを行ないます。なお流動性、市場状況等によっては通貨数が異なる場合があります。</p> <p>ニ. 投資する債券は、各国の政府、政府関係機関および国際機関等が発行するものとし、取得時においてB B格相当以上（ムーディーズでB a 3以上またはS & PでB B-以上）とします。</p> <p>ホ. ポートフォリオの修正デュレーションは1（年）程度から3（年）程度の範囲とします。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。1月と7月の計算期末については、上記継続分配相当額に付加して分配する場合があります。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。</p>	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	17.2	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
平均値	△ 1.4	3.6	6.8	4.6	1.4	1.0	1.0
最小値	△ 19.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved. (注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



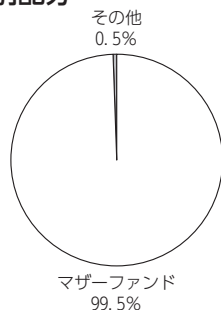
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

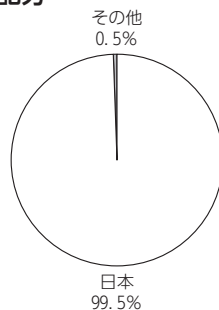
組入ファンド等

	比率
ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド	99.5%
その他	0.5

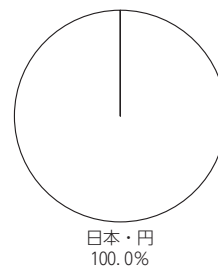
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2021年1月15日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項目	第149期末	第150期末	第151期末	第152期末	第153期末	第154期末
	2020年8月17日	2020年9月15日	2020年10月15日	2020年11月16日	2020年12月15日	2021年1月15日
純資産総額	1,600,748,568円	1,588,163,340円	1,536,196,857円	1,552,345,184円	1,557,294,789円	1,534,786,033円
受益権総口数	4,606,393,219口	4,581,398,578口	4,554,471,225口	4,513,155,173口	4,446,120,091口	4,371,516,899口
1万口当り基準価額	3,475円	3,467円	3,373円	3,440円	3,503円	3,511円

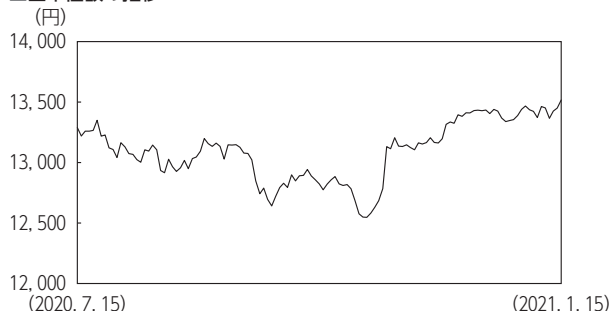
* 当作成期間（第149期～第154期）中における追加設定元本額は32,129,668円、同解約元本額は284,405,738円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆ダイワ・エマージング高金利債券マザーファンド（作成対象期間 2020年7月16日～2021年1月15日）

■基準価額の推移



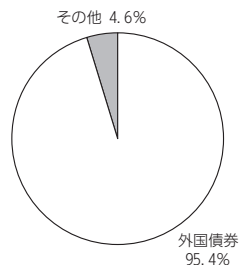
■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用) (その他)	8 (7) (0)
合計	8

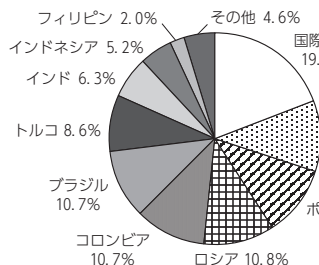
■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
Colombian TES 7% 2022/5/4	コロンビア・ペソ	7.5%
Petroleos Mexicanos 7.65% 2021/11/24	メキシコ・ペソ	6.5
EUROPEAN BK RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT 4.5% 2021/8/14	フィリピン・ペソ	6.4
Brazil Notas do Tesouro Nacional Serie F. 10% 2023/1/1	ブラジル・レアル	5.7
Russian Federal Bond - OFZ 7.5% 2021/8/18	ロシア・ルーブル	5.7
Poland Government Bond 2.25% 2022/4/25	ポーランド・ズロチ	5.0
Turkey Government Bond 11% 2022/3/2	トルコ・リラ	4.1
Poland Government Bond 2022/7/25	ポーランド・ズロチ	3.4
Mexican Bonos 6.5% 2021/6/10	メキシコ・ペソ	2.8
Indonesia Treasury Bond 8.25% 2021/7/15	インドネシア・ルピア	2.7
組入銘柄数		49銘柄

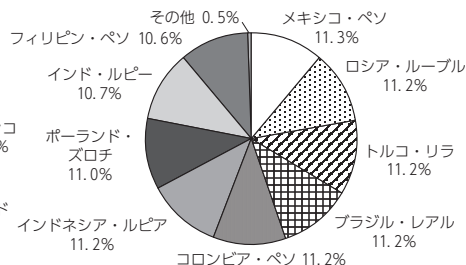
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のもです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。